ひめゆり平和祈念資料館

資料館だより

2019年11月　小学生に話をする島袋淑子証言員

第65号

2020. 5.31

目　次

●ひめゆり平和祈念資料館
　リニューアル作業進んでいます・・・・・・・・・・・・・ 1
●ひめゆり平和祈念資料館開館30周年記念事業
　戦跡フィールドワーク―ひめゆり学徒隊の足あと―・・・ 2
●新型コロナウィルス感染症の影響について・・・・・・・ 3
●資料館トピックス　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
　入館者2,300万人達成／日本平和博物館会議に参加／第2回“ひめゆり”を伝える映像コンテスト受賞作品決定／吉永小百合・坂本龍一チャリティコンサートin沖縄　「平和のために～海とぅ詩とぅ音楽とぅ」／「沖縄戦・ひめゆり学徒隊の歴史を海外に伝える展示プロジェクトinハワイ」報告書発行
●2020年度のイベント・事業　・・・・・・・・・・・・・・・ 6
●コラム　相思樹　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
●統計にみる2019年度　・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
●ひめゆり研究ノート⑲
　沖縄戦の全学徒隊の動員数・戦死者数について・・・・ 8
●仲宗根政善日記抄（61）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
●本棚（仲程昌徳）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
●声　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
●資料館ガイド　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15

30 開館30周年

ひめゆり、新しい世代へ
ひめゆり平和祈念資料館
HIMEYURI PEACE MUSEUM

ひめゆり平和祈念資料館リニューアル作業進んでいます

相思樹並木　海津研

前号でお伝えしたように、ひめゆり平和祈念資料館はリニューアルに向けて、準備を進めています。今回のリニューアルは、開館 30 周年記念事業の一環です。戦後 75 年の節目でもあり、沖縄戦体験者が減っていく中で、「戦争からさらに遠くなった世代へ」伝えるため、表現の工夫を行います。

導入展示　ひめゆり学徒の笑顔の集合写真で始まります。

第 1 展示室　県道から正門へと続く「相思樹並木」のイラストから展示をスタート。生徒たちの表情が見える写真を増やし、戦前の生き生きとした学校生活、当時の教育、戦争にともなう学校の変化を紹介します。

陸軍病院壕　海津研

第 2 展示室　陸軍病院壕の中の様子や生徒の仕事、生徒が戦場に持っていった学用品や身の回りのものなどを絵やイラストで紹介し、想像しにくい戦場での様子が伝わるよう工夫します。

第 3 展示室　大型証言映像に、新たに英語字幕が入ります。韓国語・中国語は音声ガイドで対応できるようにします。

第 4 展示室　「鎮魂」の部屋は当館にとって最も大切な部屋です。亡くなった一人一人の顔が見え向き合える空間を残します。遺影の説明に英語を付け、繁体字・簡体字・韓国語の証言本を増設します。

第 5 展示室　「ひめゆりの戦後」を新設し、生き残ったひめゆり学徒たちの戦後と、ひめゆり平和祈念資料館の設立、開館後の戦争体験を伝える活動を紹介します。

●絵やイラストを使った表現の試み

当館では、2011 年に『絵本 ひめゆり』を、2012 年にアニメ「ひめゆり」を制作しました。子どもたちにもひめゆり学徒隊のことを伝えたいと考えていた証言員（元ひめゆり学徒）たちが、絵のすべてを確認し、修正を重ね完成しました。そのことは、館の蓄積となっています。

セーラー服の生徒　三田圭介

運動服姿で　三田圭介

展示リニューアルで、「戦争からさらに遠くなった世代へ」伝えるための表現方法をどうしたらいいか議論になりました。「絵やイラストを使うと子どもっぽい展示にならないか、写真で表した方がいいのではないか」「若い世代に伝えるためにはモノクロ写真をカラー化してはどうか」など様々な意見が出ました。

議論の末、絵やイラストによって生き生きとした学校生活が伝わり、想像するのが難しい戦場の様子の視覚化も可能になるのではないか、という結論となりました。

今回の作画は、アニメ「ひめゆり」の海津研さん、『絵本　ひめゆり』三田圭介さんが再び担当することになりました。。展示内容の構成が進み、ラフスケッチを見るにつけ、絵やイラストでこそできる表現があり、これまで以上に伝わる展示になると確信しています。

証言員に相談して展示をつくっています
（2019/09/23）

※ 新型コロナウイルス感染症の影響により、リニューアルオープンは、来年 4 月 12 日に延期することになりました。

ひめゆり平和祈念資料館　開館 30 周年事業

戦跡フィールドワーク ―ひめゆり学徒隊の足あと―

荒崎海岸に向かう参加者

ひめゆり学徒が亡くなった荒崎海岸にて

2 月 29 日に、開館 30 周年記念事業としては 2 回目の「戦跡フィールドワーク　―ひめゆり学徒隊の足あと―」を行いました。前回は、ひめゆり学徒、教師のご遺族を対象に実施しましたが、今回は、一般の方々を対象としたバスツアーです。県内外から、32 人が参加されました。

新型コロナウイルス感染症のひろがりへの懸念が出始めていたため、大幅に規模を縮小し、半日の行程に変更のうえ、参加者の健康観察、換気や手指消毒などを行っての実施となりました。

県庁前を出発し、資料館の展示を各自で見学後、ひめゆりの塔・伊原第三外科壕、荒崎海岸を見学する内容で、当館職員がガイドを行いました。荒崎海岸では、尾鍋拓美説明員が、元ひめゆり学徒の宮城喜久子さんの証言を読み上げ、海岸まで追い詰められたひめゆり学徒の状況を想像する時間を持ちました。

参加者からは、個人では訪れることができなかった荒崎海岸に行けたことが良かった、現場に足を運ぶ大切さをあらためて感じた、という声が多く聞かれました。また、「収容というのはどういうことか？」、「逃げている人々は、なぜ自決しようとしているのか」、といった質問がありました。現場で当時の状況を想像するなかで出てくる疑問や、わかりづらいことをお伝えする機会になりました。資料館の見学が初めてで見学時間が足りなかった、という方や、南部にはつらくてなかなか足を運べなかったが、この機会に参加した、という方もいらっしゃり、あらためて、イベントなどで、戦跡へ足を運ぶ機会をつくることの意義を感じました。

普天間朝佳館長のあいさつ

ひめゆり学徒についての説明

伊原第三外科壕の側で

◆新型コロナウイルス感染症の影響について

新型コロナウイルス感染症によりお亡くなりになった方々、罹患されている方々、また不安でつらい日々を過ごされているすべての皆さまに心よりお見舞い申し上げます。

感染症の世界的な蔓延にともない、当館では、スタッフのマスク着用、手洗い・手指のアルコール消毒励行、手すり等のアルコール消毒、全館換気の実施などの感染防止策をとり開館しておりました。しかし、沖縄県内においても感染者数の増加が見られることから、感染症拡大防止のため 4 月 10 日～ 5 月 31 日までの臨時休館を実施しました。

3 ～ 4 月に予定されていた修学旅行を含む団体 150 件以上がキャンセルとなりました。平和学習の機会が失われていくことがとても残念です。職員一同、新型コロナウイルス感染症の一日も早い終息を願っています。

資料館トピックス

◆入館者 2,300 万人達成

2019 年 11 月 3 日、開館以来の総入館者数が 2,300 万人に達しました。2,300 万人目の入館者となったのは、鳥取県から観光で訪れた岸本徳彦さん、紀子さんご夫妻です。資料館ロビーで行われたセレモニーでは、普天間朝佳館長から「今日で開館 30 年と 133 日目です。2,300 万人という多くの方が訪れ、沖縄戦のことを知り、学んでくださってとてもありがたいことだと思います」と挨拶があり、認定証と記念品が贈られました。

2, 300 万人目の入館者岸本さんご夫妻（中央）

徳彦さんからは「初めての沖縄観光で、ひめゆりの塔には沖縄に来たら行ってみたいと思っていました。ニュースなどで何百万人、というのはよく見るけれど、まさか自分たちが、とびっくりしました」と感想が述べられました。

◆日本平和博物館会議に参加

2019 年 11 月 21 日・22 日、神奈川県立地球市民かながわプラザで開催された「第 26 回日本平和博物館会議」に、普天間朝佳館長が出席しました。今回は①戦争体験の継承に新技術を活用することについて、②原爆展の共催の可能性について、③若い世代と「平和」を繋ぐ取り組みについて、④第 10 回国際平和博物館会議への協賛（名義）についての 4 つの協議題について話し合われました。

①については特に白黒写真のカラー化と VR 導入の 2 つについて活発な意見が交わされ、カラー化については「視覚的なインパクトを与え集客につながる」「表現力や訴求力が高まる」などのメリットを挙げる意見がある一方で、「十分な時代考証が果たしてできるのか」と慎重さを求める意見もありました。VR 導入については「戦争の恐ろしさがリアルに体感できる反面、過去の悲惨な体験が戦闘ゲーム感覚に受け取られたりして、戦争の本質より“怖さ”のみが伝わる可能性も高い」と危惧する意見等が出ました。

◆第 2 回「“ ひめゆり ” を伝える映像コンテスト」受賞作品決定

映像作品について議論を交わす選考委員
（2020 年 2 月 3 日）

ひめゆり平和研究所では、第 2 回「“ ひめゆり ” を伝える映像コンテスト」を開催しました。7 月～ 11 月の期間、「ひめゆりと○○」をテーマに、ジャンルを問わず、自由な発想とアイディアの映像作品を募集し、6 作品の応募がありました。学校での平和学習をまとめた小・中学校からの応募や、表現力の高い映像、パフォーマンスを収めた作品など、レベルの高い内容の作品がそろいました。2 月 3 日に、フリーディレクターの仲松昌次さん、ナレーターの諸見里杉子さん、映画監督の宮平貴子さんによる選考委員会が行われ、大賞の「ひめゆり映像賞」と「特別賞」の 2 作品が選ばれました。

「ひめゆり映像賞」は、県内大学生による学生団体 Peace Bridge の作品「おばあのいとこ」が受賞しました。元ひめゆり学徒隊であり、伊原第 3 外科壕で亡くなった一高女 3 年生の安里千江子さんと親戚だったことをきっかけに、“ ひめゆり ” に関心を持ち、学生たちが主体となって理解を深めていく内容となっています。選考委員からは、スライドショー的な演出からドキュメンタリーに変わる転換が効果的であったとの評価があがりました。

また、特別賞には東京ジーザス .inc の「光の跡地」が選ばれました。「もし現代の子どもたちがひめゆり学徒隊となったら…」という実験的でオリジナリティのある設定が高い評価を得ました。惜しくも大賞は逃しましたが、脚本家や役者の今後の活躍を期待させる作品でした。

入賞にはいたらなかったものの、その他の映像作品からも、応募者が “ ひめゆり ” を学ぶ姿や、沖縄戦への理解が深まる様子などが見受けられました。小中学生の積極的な学びの姿勢には心強さを感じました。今後も、このコンテストがひめゆり学徒隊や沖縄戦を深く考えるきっかけとなることを期待しています。

映像コンテストは、NHK 沖縄「きんくる」や NHK 九州・沖縄「実感ドドド！」、地元紙の記事などで、ひめゆりの新たな取り組みとして紹介されました。沖縄戦の記憶を未来に伝えていくために、今後もみなさまからの新しい映像表現をお待ちしております。

2020 年度の詳細は、公式ホームページにて 6 月ごろ告知予定です。第 2 回の受賞作は、以下の QR コードからご覧になれます。

ひめゆり映像賞「おばあのいとこ」

特別賞「光の跡地」

◆吉永小百合・坂本龍一チャリティーコンサート in 沖縄 「平和のために～海とぅ　詩とぅ　音楽とぅ」

2020 年 1 月 5 日、宜野湾市の沖縄コンベンションセンター劇場棟で吉永小百合・坂本龍一チャリティーコンサート in 沖縄「平和のために～海とぅ詩とぅ音楽とぅ」が開かれ、俳優の吉永小百合さんが戦争と平和、

沖縄をテーマとした詩を朗読し、音楽家の坂本龍一さんがそれに合わせてピアノを演奏しました。会場は満席で、約 1,700 人の来場者は、吉永さんの清らかな声と坂本さんのピアノの音色に聞き入り、平和への思いを共有しました。

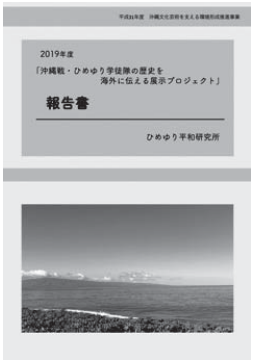
吉永さんは当館の展示室を詠んだ星野博さんの「展示室」ほか「へいわってすてきだね」など沖縄戦全戦没者追悼式で読まれた子どもたちの平和の詩 4 編などを朗読。坂本さんは映画「戦場のメリークリスマス」や「米軍が最も恐れた男　カメジロー不屈の生涯」のテーマ曲など 7 曲を演奏し、またゲストの古謝美佐子さんが坂本さんの演奏で「安里屋ユンタ」などを歌い会場を盛り上げました。

来場者からは「吉永さんや坂本さんの平和への思いが伝ってきて、感動で涙があふれた」「戦争体験者が減る中、朗読や音楽で平和を伝えることは意義がある」「自分にも平和のために何かできることはないかと考えさせられた」などの感想が寄せられました。

同コンサートの開催実行委員会は沖縄タイムス社、琉球新報社、白梅同窓会、対馬丸記念館、沖縄文化協会、当館の 5 団体で組織され、収益金は当館ほか白梅同窓会、対馬丸記念館、辺野古基金の 4 カ所に寄付されました。

吉永小百合さんの朗読と坂本龍一さんの伴奏
（琉球新報社提供）

◆「沖縄戦・ひめゆり学徒隊の歴史を海外に伝える展示プロジェクト in ハワイ」報告書発行



報告書表紙

ひめゆり平和研究所の事業として 2019 年度から始まったハワイ展示プロジェクトは、無事に 1 年目の取り組みを終え、その成果をまとめた報告書を発行しました。沖縄県文化振興会の「平成 31 年度 沖縄文化芸術を支える環境形成推進事業補助事業」として採択が決定し、多くの取り組みを実施することができました。

報告書では、ハワイ展示プロジェクトを立ち上げた背景や、プロジェクト概要のプレゼンテーション資料、聞き取り調査や講習会の内容などを写真付きで詳しく紹介しています。資料編として、ハワイ大学マノア校附属図書館で実施した平和講話のスライド資料や、ひめゆりとハワイの関係性を説明した発表原稿、参加者からの感想などを加えました。ハワイを拠点に、沖縄戦やひめゆりのストーリーを主題にした作品から戦争体験の継承を促しているストーリーテラー（独りで語りのパフォーマンスを行う役者）のアルトン・チュンさんへのインタビューも掲載しています。

ハワイでの第２回視察の様子

巻末には、ハワイの人々の沖縄戦やひめゆり学徒隊についての認知度、また、どれほどの人が展示会に関心を寄せるのかのアンケート調査結果も掲載しました。県系の方を中心に実施した結果、６割の方が「ひめゆりについて聞いたことがある」と回答し、９割の方が「展示会に関心がある」と答えています。

今回の成果をふまえ、2020 年度では、展示会にむけた準備を本格的に進めていく予定です。

2020（令和 2）年度のイベント・事業

当財団では、今年度、下記の事業およびイベントを計画しています。

○イベント

・ガイド向け講習会（夏頃予定）　・第 27 回日本平和博物館会議を当館で開催

・教員向け講習会（夏頃予定）・親子戦跡フィールドワーク（夏頃予定）

○開館 30 周年記念事業

・リニューアル

展示室リニューアル、多目的ホール、ロビー、ホームページ刷新

・リニューアル特別展「リニューアル関連収集品展＆平良孝七ひめゆり写真展」（仮）

・開館 30 周年記念誌発行

○事業

1．ひめゆり平和祈念資料館の管理・運営事業

（1）教育普及　（2）ひめゆり学徒と沖縄戦の資料収集・整理保存・調査研究

（3）出版　『感想文集 第 31 号』「資料館だより」第 65・66 号、『開館 30 周年記念誌』（2020 年 12 月頃）、『沖縄戦・ひめゆり学徒隊の歴史を海外に伝えるプロジェクト in ハワイ　2020 年度報告書』

（4）　ひめゆりの塔の管理及び慰霊祭の挙行

（5）　ひめゆり平和研究所

・沖縄戦・ひめゆり学徒隊の歴史を海外に伝えるプロジェクト in ハワイ

・第 3 回 “ ひめゆり ” を伝える映像コンテスト

2．ひめゆり関連戦跡壕の調査・保存・活用事業

相思樹

ハワイでの多くの出会い

ひめゆり平和研究所　狩俣英美

ひめゆり平和研究所の新しい事業として「ハワイ展示プロジェクト」が始まりました。２０２１年にハワイで展示会開催を目指す本プロジェクトは、沖縄県文化振興会の助成事業として採択され、急ぎ足で1年目の取り組みがスタートしました。私もプロジェクトチームの一員として貴重な経験をすることができました。

２回のハワイ現地調査、聞き取り調査やアンケート調査など、多くの取り組みを実施しました。その中で、特に印象深い出来事は、ひめゆり同窓生の福田経子さんとの出会いでした。女学校時代の写真や友人からの寄書きなどを大切に保管されていて、一部を資料館に寄付していただきました。偶然の出会いでしたが、本プロジェクトを通して新たな関係性が生まれたことに驚き、海外でもお話を伺う機会があることに希望が見出せました。

また、もう一つ印象深かった出来事は、ウォルター・アシミネさんとの〝再〟会でした。ウォルターさんは、ひめゆりの塔周辺の敷地購入資金を寄付したハリー儀間真一さんの義理の弟さんです。なぜ〝再〟なのか。ウォルターさんは、２００１年、企画展のために資料館を訪れており、彼にとっては資料館関係者と数十年ぶりの再会だったからです。あの時は色々とお世話になったと言って、初対面の私にも両手いっぱいのお土産を渡すなど、まるで親戚のように温かく接してくれました。

ひめゆりの不思議な縁により、ハワイでは多くの出会いがありました。みなさんの協力を得て、大きな前進ができた1年となりました。

統計に見る 2019 年度

※小数点第 1 位を繰り上げているため、合計が 100％でない場合もある。

1．入館者状況（有料）

＊2019 年度入館者数

491,345 人

2018 年度 530,087 人より－38,742 人
うち外国人 5,656 人、前年比－824 人

＊開館以来 31 年間で 30 番目の入館者数。平均入館者：40,945 人／ 1 か月、1,350 人／ 1 日。
→ただし、慰霊の日、台風休館 1 日を除く 364 日。
＊開館以来 31 年間の累計は 23,215,592 人で、年平均入館者数は 748,890 人、 1 日平均は 2,078 人。
→ただし、1989 年度の開館期間は 9 か月間。

2．無料入館

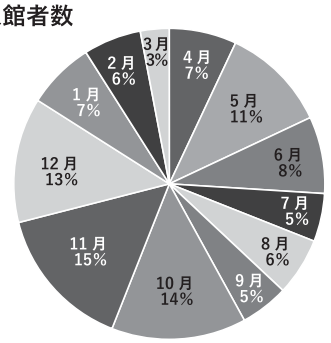
31,543 人

＊団体（県内学校団体・特別支援学校・一般団体含む）	174 団体	7,066 人
＊学校団体引率者		16,318 人
＊修学旅行下見	518 校	1,394 人
＊個人免除者（身障者手帳等提示の方）		4,476 人
＊慰霊の日（6 月 23 日）		2,289 人

※沖縄県内学校団体は入館料免除となるため、総入館者数には含まれない。ただし、学校団体の総数及び人数には含まれる。

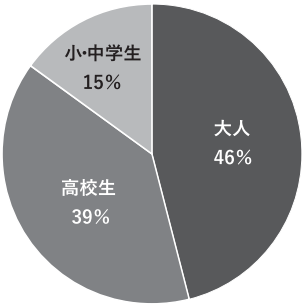
3．月別・類別入館者割合

①月別入館者数



＊入館者が多い時期：10 ～ 12 月
　高校生修学旅行シーズン。
　3 か月間 計 144,990 人（総入館者数の 30％）
＊入館者が少ない時期：7 ～ 8，3 月
　3 か月間 計 3,331 人（総入館者数の 0.6％）

②類別入館者数（個人・団体含む）



＊類別割合：大人 46％、高校生 39％、小・中学生 15％
＊31 年間平均：大人 63％、高校生 26％、小･中学生 11％
＊高校生、小･中学生の団体の割合は、それぞれ 95％、66％
＊団体：高校生が最も多く 68％、小･中学生 20％、大人 12％

※新型コロナウイルス感染症拡大に伴う臨時休校措置により 2020 年 3 月の学校団体はすべてキャンセル

4．学校団体入館状況

2019 年度の修学旅行等学校団体入館数は 1,838 校、246,049 人。2018 年度の 1,915 校、279,621 人に比べ－77 校、－33,572 人。小学校 91 校で 5％、中学校が 568 校で 31％、高校が 1,179 校で 64％。

①都道府県別 BEST 3

	1 位	2 位	3 位
小学校	沖縄 46 校	鹿児島 11 校	東京 6 校
中学校	岡山 72 校	兵庫 65 校	大阪 61 校
高　校	東京 175 校	神奈川 108 校	埼玉 97 校

＊全体に占める沖縄の中学・高校の割合は中学 2％、高校 0.8％。

②入館校数月別 BEST 3

	1 位	2 位	3 位
小学校	6月29校(32%)	5月19校(21%)	2月 8校(9%)
中学校	5月261校(46%)	4月106校(19%)	6月80校(14%)
高　校	11月279校(24%)	10月259校(22%)	12月241校(20%)

＊高校生の入館は 10 月～ 12 月の 3 か月間で全体の 66％。

ひめゆり研究ノート⑲

沖縄戦の全学徒隊の動員数・戦死者数について

（2020 年 5 月 1 日現在）

当館では、本年 6 月に『ひめゆり平和祈念資料館資料集 4　沖縄戦の全学徒隊』（以下、『資料集 4　沖縄戦の全学徒隊』）の改訂版の発行を予定している。それに向けて全学徒の動員数・戦死者数の再調査を行った結果、いくつかの箇所で訂正の必要が出てきたため、改訂版ではその調査結果を反映した数字を掲載する予定である。本研究ノートでは、その最新の数字を紹介するほか、これまでの全学徒の動員数、戦死者数の調査の経緯について報告したい。

1. 全学徒の動員数・戦死者数の調査の経緯

全学徒の動員数・戦死者数について、これまでに調査・公表された資料としては、当館が把握しているものとしては、作成年の早い時期からいうと、①国立公文書館所蔵「学徒名簿」、② 1959 年 6 月琉球政府社会局援護課発行の『沖縄戦における学徒従軍記』、③ 2000 年 12 月当館発行の『開館 10 周年記念特別展　沖縄戦の全学徒たち　報告書』、④ 2008 年 6 月当館発行の『資料集 4　沖縄戦の全学徒隊』、⑤「沖縄戦における全学徒戦没者数の刻銘碑」（2019 年 3 月 14 日に「全学徒隊の碑」のそばに沖縄県によって設置）、⑥各学校の同窓会が発刊した図書類、の 6 つがある。

①国立公文書館所蔵「学徒名簿」は、琉球政府社会局援護課が戦後初期に作成し旧厚生省に提出したものと思われる、2019 年 11 月に那覇市内の中学校教員大城邦夫氏が国立公文書館から入手・公表した資料である。「学徒名簿」と題された学校ごとの文書綴りの中に、「部隊編入状況一覧表」や「部隊編入者名簿」、「死亡現認証明書」など数種類の文書が混在している。綴られている書類は 1 種類のみの学校もあるし、9 種類ある学校もある。作成年は不明だが、1955 年 7 月 29 日に厚生省に提出された「（男子学徒を軍属ではなく）軍人として而も早急に取計ってください」という陳情書が沖縄県立第一中学校の綴りの中に添付されており、少なくとも 1955 年以前に作成された可能性が高い。

②『沖縄戦における学徒従軍記』は、「援護課調査係において 1955 年末から十数回に亘り、関係生存者を招致して、学徒隊の復員処理のための資料として、その行動状況について聴取したもので、詳細な記録としては乏しいうらみはあるが、全般的な概況としてとり纏めたもの」（同書はしがきより）である。

③『開館 10 周年記念特別展　沖縄戦の全学徒たち　報告書』は、開館 10 周年記念特別展を開催する際、各同窓会からの報告資料や出版物などを参考にしてまとめたもの。調査不足や典拠不明のものもあったため、④『資料集 4　沖縄戦の全学徒隊』を発刊する際に再度調査を行い、いくつかの学校の数字を訂正し、全数字の出典を明確にした。

⑤「沖縄戦における全学徒戦没者数の刻銘碑」は、「元全学徒の会」が各学校の同窓生有志に調査を依頼し作成したもの。学徒隊と学徒隊以外を含めた当時の在校生の全戦死者の数字である。当館の④『資料集 4　沖縄戦の全学徒隊』とは 10 校の戦死者数に違いがある。

⑥各学校の同窓会が発刊した図書類は、各学校の同窓会が調査し発刊した戦記や同窓会誌などである。貴重な資料だが、その精度は同窓会によってばらつきがある。

2.『ひめゆり平和祈念資料館資料集 4　沖縄戦の全学徒隊』2020 年改訂版の方針

以上の経緯を踏まえ、『資料集 4　沖縄戦の全学徒隊』2020 年改訂版では、下記の方針に従って、訂正を行った。

(1) ①国立公文書館所蔵「学徒名簿」は、調査途中の資料であり確定した数字ではないため、引用しない。ただし、八重山中学校と八重山農林学校の 2 校だけは他に資料がないため引用する。

(2) ②『沖縄戦における学徒従軍記』も、同書はしがきにあるように、必ずしも正確な数字とはいえないが、公的機関が公表した資料としては唯一のものなので、他に資料がない場合に引用する（ほとんどの学校の動員数で使用、二中、商工、開南の３校で戦死者数でも使用）。

(3) 今回の改訂にあたっても④『資料集４　沖縄戦の全学徒隊』を基本にするが、再調査によって一部訂正した箇所もある（詳細は本書の 2020 年改訂版を参照）。

(4) ⑤「沖縄戦における全学徒戦没者数の刻銘碑」は最新の調査に基づくものであるため、改訂版でも基本的にこの数字を引用するが、中には卒業生が含まれていたり、根拠が不明のものもあったりしため（首里高女、昭和女学校のケース）、訂正した数字を用いた箇所もある。ただし、同数字は学徒隊と学徒隊以外の区分けがされていない、当時の在校生の全戦死者であるため、その箇所でのみ引用した。

(5) これまでも③『開館 10 周年記念特別展　沖縄戦の全学徒たち　報告書』や④『資料集４　沖縄戦の全学徒隊』で、⑥各学校の同窓会が発刊した図書類の数字が引用されているが、本改訂版では新たに、工業学校の動員数及び戦死者数に同校が発刊した『工の巧ー弾雨下の工業健児』の数字を引用した。

（普天間朝佳）

［学徒の動員数・戦死者数］

①女子学徒の動員数・戦死者数

学校名	戦後の通称	①動員数（学徒隊）	②戦死者数（学徒隊）	③学徒隊以外の戦死者数	④戦死者合計（②+③）
沖縄師範学校女子部	ひめゆり学徒隊	157 教師 10	81 教師 5	27 教師 3	生徒 108 教師 8 計 116
沖縄県立第一高等女学校	ひめゆり学徒隊	65 教師 8	42 教師 8	61	生徒 103 教師 8 計 111
沖縄県立第二高等女学校	白梅学徒隊	46	17	41 教師 8	生徒 58 教師 8 計 66
沖縄県立第三高等女学校	なごらん学徒隊	10	1	9	生徒 10 計 10
沖縄県立首里高等女学校	瑞泉学徒隊	61	33	29	生徒 62 計 62
私立積徳高等女学校	積徳学徒隊	25	3	31 教師 5	生徒 34 教師 5 計 39
私立昭和女学校	梯梧学徒隊	17	9	50 教師 4 計 54	生徒 59 教師 4 計 63
沖縄県立宮古高等女学校	宮古高女女学徒隊	不明	1	0	生徒 1
沖縄県立八重山高等女学校	八重山高女学徒隊	約 60	1	0	生徒 1
沖縄県立八重山農学校（女子）	八重農女子学徒隊	16	0	0	0
合計		生徒約 457 教師 18	生徒 188 教師 13	生徒 248 教師 20	生徒 436 教師 33

②男子学徒の動員数・戦死者数

学校名	戦後の通称	①動員数（学徒隊）	②戦死者数（学徒隊）	③学徒隊以外の戦死者数	④戦死者合計（②＋③）
沖縄師範学校男子部	師範鉄血勤皇隊	生徒 386 教師 24	生徒 226 教師 9	入隊 64 教師 10	生徒 290 教師 19 計 309
沖縄県立第一中学校	一中鉄血勤皇隊 一中通信隊	生徒 273 教師 13	生徒 205 教師 6	入隊 18 その他 67 教師 8	生徒 290 教師 14 計 304
沖縄県立第二中学校	二中鉄血勤皇隊 二中通信隊	生徒 140	生徒 115	70	生徒 185 教師 10 計 195
沖縄県立第三中学校	三中鉄血勤皇隊 三中通信隊	生徒 363	生徒 42	入隊 35 その他 8	生徒 85 計 85
沖縄県立農林学校	農林鉄血勤皇隊	生徒 170	生徒 23	入隊 64 その他 37	生徒 124 教師 5 計 129
沖縄県立水産学校	水産鉄血勤皇隊 水産通信隊	生徒 49	生徒 31	入隊 5 その他 22	生徒 58 教師 8 計 66
沖縄県立工業学校	工業鉄血勤皇隊 工業通信隊	生徒 94	生徒 85	その他 73	生徒 158 教師 7 計 165
那覇市立商工学校	商工鉄血勤皇隊 商工通信隊	生徒 99	生徒 73	その他 84	生徒 157 計 157
私立開南中学校	開南鉄血勤皇隊 開南通信隊	生徒 68	生徒 66	124	生徒 190 教師 4 計 194
沖縄県立宮古中学校	宮古中鉄血勤皇隊	不明	不明	不明	不明
沖縄県立八重山中学校	八重中鉄血勤皇隊	不明	2	1	生徒 3
沖縄県立八重山農学校	八重農鉄血勤皇隊	不明	不明	不明	生徒 9
合計		生徒 1,642	生徒 868	生徒 672	生徒 1,549 教師 67

※ 動員数・戦死者数の根拠については、『ひめゆり平和祈念資料館資料集 4　沖縄戦の全学徒隊』の改訂版（2020 年 6 月発行予定）を参照ください。

仲宗根政善日記抄（61）

［1980 年］五月二日

新しく家を建築するために、勉民子が結婚記念にと植えたくちなしの花が、土砂や瓦礫のためにうもれてしまっていた。やっと枝の先が頭をもたげていたが、それが伸びて、四年もたってから、今朝、長雨の晴れた五月の空の光をあびていっせいに真白い花が咲いた。二階の窓から見おろしていると、その清彩な花が、庭全体を清めているようである。

昨夜、テレビで乙女の歌う歌に聞きほれながら、喜屋武最南端に散って行った生徒の一人一人のことが浮かんだ。生徒一人一人にすばらしい才能がひそんでいた。音楽にたけた者もあり、絵にたけたものがあり、文学に科学にいろいろの才能を彼らは持っていた。一人の生徒を考えて見ただけでも、その才能が生涯を通じてどのように発揮され、社会のために尽したかわからない。この世のしあわせをえ、この世のしあわせをもたらし〔た〕にちがいない。さらにその子供や、子孫はこれをうけつぎつつ、社会にも貢献して行ったであろう。一人の生徒を考えただけでも、生きておれば、その生命から発するものは、無限の光となって、世を照らしたにちがいない。ところがその死とともに、その光は、永久に消えてしまった。一人だけでも無限の光を持っていた。ところが、ただ一人だけが死んで行ったのではなかった。職員生徒二百十一名が、ひめゆりの塔に祀られている。これらのはなつ光は永久に消えたのである。死滅したのである。わかくして死んで行った生徒たちの生命にひそむ、この光がきえている。

一体彼らの死が、世に悲しみのほかに、何を残してくれたのであろうか。その悲しみさえ次第にうすれつつある。忘却の彼方に彼らは遠ざかりつつある。その死を無にしたくないという心は、親に学友にある。彼らを顕彰しようという人々の心情も理解出来ないではない。親にもわれわれ教師にもただ深い悲しみばかりがいつまでも残る。

喜屋武断崖に追いつめられて、死に直面したとき、誰にも知られずに岩かげに死んで行く孤独感にたえられなかった。骨を拾う者もなく、人にも知られず一人で朽ちて行くことはたえられなかった。自分の最期の場所を親に知らせたい、骨は拾ってもらいたい。こうして最期をとげたことを知ってもらいたいと思った。

今度、沖縄の悲劇を再刊するにあたって、三十三年忌に、学友たちの集めてくれた写真を一枚一枚のせることにした。誰にも知られず、永久に死んで行く孤独感をひしひしと感じたからであった。人間誰しもが、この世に生きていたことを人々に知ってもらいたいのである。誰からも忘れられたくない。学友からもいつまでも思い出していただきたい。親にとっては涙のたねになるかもしれないが、あえて全員の写真をのせておいた。

五月十日

一昨日、照屋忠英先生の叙勲のことが気になり、玉木英律君といっしょに県援護課に問い合せに行った。係が留守でそのまま帰って来た。

昨日、援護課から電話で、連絡があり、去る三月二十八日、叙勲について、厚生省から、正式決定の通知があったとのことで、さっそく、隣りに住んでいる、照屋先生の長女津波古キクさんを訪ねて伝えた。なくなられてから三十五年目である。スパイ嫌疑をかけられて、非業の死をとげたと伝えられていた。血迷った日本兵によって殺された例は、極めて多かった。しかし、最期が確認されたわけではなく、うわさばかりがひろがった。御真影を首にかけて、壕の周へんをうろうろしているところをスパイ嫌疑で、日本兵に射殺されたということも、私自身、耳にしていた。このうわさが、政府につたわったために、同じ行動をされた奥さまは、戦後間もなく叙勲になっているのに、先生は、恩給さえ貰えない。遺族は、この汚名をはらしたいために、いくども、県援護課に通い、恩給叙勲の申請をしたが、そのたびに却下されて、ほとんど自暴自棄になった。息子の一人は、酒に酔

い道路の真中に出て、何がスパイだ。半狂乱になってわめきつづけていたとも思う。勲等がほしいというのではない。この汚名をはらしたいのである。この苦悩をなめつづけながら長年こらえつづけて来た。

照屋忠英先生はまことにすぐれた教育者であった、伊豆味に生れ育ち、清浄な山の気によって、その性情は純にして純であった。教育者としての天分を生れながらにしてそなえておられた。音楽・運動の才もあり、すばぬけた指導力を持つ教育者であったのであります。

たとえ、いろいろの風評はあるにせよ、至誠一貫、真実一路で、教育に精進された先生が、悪名をきせられたままにされるとは、信じていませんでした。しかし、家族にして見れば、たえられないくつじょくの日々であったにちがいありません。

五十二年に、顕彰碑建立のことが話し会われて、級友、教え子、郷党の多くの者がたちあがって、四月二十四日に、先生の住宅入口に、頌徳碑（しょうとくひ）が建ち、除幕式が行われたのでした。

私はその時、はじめて、先生が、恩給も支給されず、そのままになっていることを知り驚きました。偉大な先輩をそのままにしていいものかと、いきどおりを感じました。式の途中、近くの青山をみつめながら、この静かな平和な青山が鬼畜の如きものどもによって荒された戦争へのいかりがこみあげてたえられなかった。しかし、真実はいつかは輝くと思った。

教育に生涯精進したものがそのままうずもれることはない。必ず悪名ははれる。はらさなければならないと考えつつけた。

吉田嗣延氏が、沖縄協会賞学術奨励賞を思い立ち、沖縄に来たとき、ハーバービューホテルで会い、照屋先生叙勲のことを訴えた。氏はよし引受けたと言ってくれた。その後協会学術奨励賞の打合わせに上京したとき、氏とともに公害等調査整理委員会の加藤泰守氏、厚生省援護局業務第一課、調査資料室の柳邦男氏を訪ねて、陳情した。お二人とも沖縄事情に極めてくわしく、深い理解を示してくれた。柳氏から、二人が帰って間もなく連絡があり、とりあえず弔慰金の申請をし、つぎに叙勲の申請、その後、戦没者の特別弔慰金を支給する手續をとることを伝えてくれた。吉田氏と思わずかたい握手をかわした。忘れがたいことである。これで、先生の汚名をすすぎ、生涯を教育に精進された、その功徳が永久に光ると思い、喜びにたえなかった。それから十二月に上京したときは、すでに叙勲の内定にまですすんでいる情報をえた。しかしあれから四か月。何の音沙汰もない。途中でまた邪魔がはいったのではないかと、きぐの念にもおそわれた。すでに三十五周年忌を迎えられたのである。遺族は、叙勲の知らせを待って三十三年忌を営もうと待ちに待っているのである。

昨日やっと叙勲の内報をえたときは、肩の重荷がおりた。キクさんを訪ねたときは、ほんとに嬉しかった。いかにもほっとし、満足そうにしている顔をみていると、照屋先生のことが浮んだ。キクさんの髪には白いのがちらついている。父の死を、遠く本土にいて、はっきり予感したという。もうなくなられた父母よりも年をとっている。立派な両親に育てられて成長した。音楽好きであった父親の天分をそのままゆずり受けて、今も音楽の教師として働いている。夫を失い、失意の中にあったが、今や子供らは立派に成長している。幸せであってほしい。

※読みやすさを考慮して、字句を補った箇所がある。
※〔 〕は編集で補った。
※□は判読不能。
※旧字体は新字体へ変更し、明らかな誤字は改めた。

本　棚

仲程　昌徳

池田榮史『沖縄戦の発掘　沖縄陸軍病院南風原壕』（新泉社，2019）

1945 年 3 月 23 日の晩、学園を出発して南風原に向かった女師・一高女の生徒たちは、黄金森の三角兵舎に入る。5 日後の 28 日、米軍の砲撃が激しくなってきたことで、壕内へ移動していく。

当初、生徒たちが過ごした三角兵舎は、1945 年 2 月 12 日から「要塞建築勤務第 7 中隊（球 2775）」が建てたものであり、その後入った壕は「1944 年 9 月 3 日から字喜屋武に駐屯していた第 2 野戦築城隊（球 10158）第一中隊が中心となり」（古賀徳子「沖縄戦と沖縄陸軍病院南風原壕」『沖縄陸軍病院南風原壕』2010 年）掘られたものであった。

壕に入った生徒たちは、4 月 1 日、本島への米軍の上陸に伴い、増え続ける負傷兵たちの看護に追われて行くと同時に、周囲のすべてを吹き飛ばしていく砲弾の炸裂を目前にするようになる。

3 月 23 日の晩、学園を出発した生徒の一人島袋淑子は「私たちの行く所は病院なのだから、そこには赤十字の旗が立てられていて、その旗がたてられている所は、いくら戦争でも攻撃されない。そこは国際条約で守られている」と信じていて、「なんの不安もありませんでした」（『ひめゆりとともに』2018 年）と書いていたが、やがて、そこが「守られている」ところなんてものではなく、戦場そのものであったことを知るようになる。

5 月 25 日、司令部の首里からの撤退に伴い、生徒たちも南風原から南部に移動することになる。南風原での 2 カ月あまり、彼女たちは、第 2 野戦築城隊が掘削した壕を掘り進めて起居していたのだが、沖縄陸軍病院は、いったい何本の壕からなっていたのだろうか。

最も早くに手記を書いていた生徒のひとり上原当美子は「真暗な壕が四十余りもずらりと並んでいた」（『沖縄の悲劇―姫百合の塔をめぐる人々の手記』1951 年）といい、引率教師の一人西平英夫は「三十本あまりの横穴壕」（『ひめゆり学徒隊の青春』1972 年）と書いていて、そこにはたくさんの壕があったことがわかる。「四十余り」も「三十本あまり」も、実際に壕で過ごした体験者の証言であるが、現在分かっている壕群については「沖縄陸軍病院南風原壕の各壕」（古賀徳子、前掲書）に詳しい。

そのようにたくさんあった壕群の調査に琉球大学考古学研究室が入ったのは 1994 年、終了したのが 2006 年であった。その間 13 年、本書はそれからさらに 10 数年をかけ「調査であきらかになった病院壕の実態を、沖縄・南風原の文化と歴史、沖縄戦の経過とあわせて」まとめあげたものであった。

南風原町が、「南風原陸軍病院壕保存・活用調査研究委員会」を立ち上げたのは 1992 年。そこで、「先例のない戦争中の壕の考古学的調査をどのように進めるか」といったことが模索され、まず壕の散在する黄金森一帯の地形測量図を作成、次いで「壕内部への出入りが可能であった二〇号壕と二四号壕内部の現況実測図を作成するとともに、両壕壁面の強度測定および壕が掘削された丘陵の地質構造調査を実施」し、壕群の考古学的調査を「四段階の行程で進めること」にする。第 1 段階では情報の収集をし、第 2 段階では、壕の現況図の作成と情報との照合、第 3 段階では、遺構の試堀を通し、位置や埋没状態の確認、「考古学的な方法による資料化」、第 4 段階では、本調査を行うといった工程案が組まれ、病院本部壕、第一外科壕群、内科（第二外科）壕群、伝染病科（第三外科）壕群の実態についての知見をもとに、「第一外科七～一〇号壕」の状態、ひめゆり学徒隊が使用した「第一外科二四号壕」の構造、「第二外科二〇号壕」の様子、さらにその他の第二外科壕についての報告がなされているが、調査の過程で、元ひめゆり学徒たちとともに壕内の遺品調査もしていた。

本書は、考古学教室の、病院壕発掘調査を基礎にしたものである。それは「第 4 章　よみがえる病院壕」によく表れているが、一般的な調査報告書とは異なるものとなっている。簡単にいえば、病院壕の調査を中心にして、沖縄の歴史と沖縄戦の推移を簡潔にまとめあげたもので、特異な沖縄戦記といってもいいようなものとなっている。沖縄戦の恰好な入門書といっていいだろう。

負の遺物といっていいような壕を、なぜ掘り返し、補強までして公開していく必要があるのか、本書は、そのような問いに答えるものとして大切であるばかりか、まだ埋もれたままになっている壕の調査をうながすものともなっていよう。

声

私を変えた資料館での出会い

徳島県　中学生　15 歳　藤川華杏

ひめゆり平和祈念資料館の皆様、お元気でお過ごしですか。私は、徳島に住む中学 3 年生です。

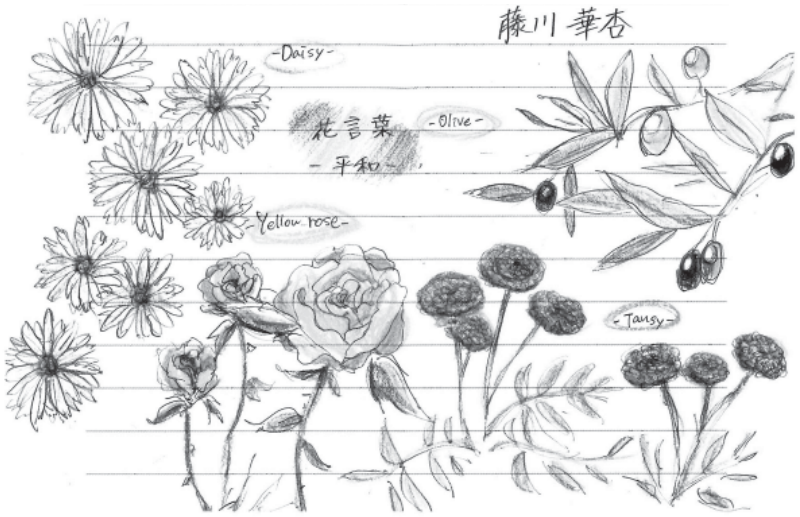
去年の夏に初めて、ひめゆり資料館を訪れました。恥ずかしながら、私は資料館に入る前まで、ひめゆり学徒隊が何かすらあまり理解できていませんでした。しかし、ここで、学び、感じたことが今では私が平和を考える原動力になっています。

私の祖父母は終戦直前に生まれたので、戦争体験者の方からお話を直接伺ったことはありませんでした。そのため、資料館での島袋淑子さんとの出会いが、私の人生初めての Living Link でした。生の声以上に響くものはなく、そんな貴重な機会をいただけて、本当にありがたかったです。

徳島に帰ったあと、県立図書館で見つけた『平和は退屈ですか』を読ませていただきました。ひめゆり学徒隊の方々も出ていらっしゃって、本が苦手だった私も、この本だけは 1 ページ 1 ページ言葉を噛みしめながら無我夢中で読むことができました。自分が大切だと思った部分に付箋を貼って、今も写真に残しています。

ひめゆり資料館の方々のおかげで、私は沖縄がもっと好きになり、平和の真意を考えたいと強く思うようになりました。あの夏、ひめゆり資料館に行ったことが、私を大きく変えたと確信しています。

今の私には、平和のために何ができるかはっきりとは分からないし、知識も表現力も到底足りません。しかし、これからの人生の中で、戦争非体験者の私が、平和を伝えるには何をすればよいのか、考え続けていきたいと思います。私に平和を考える力をくださり、ありがとうございました。どうかお元気で。これからもますますご活躍をお祈り申し上げます。



ひめゆり平和祈念資料館のご案内

●リニューアルに伴う休館期間と入館料改定のお知らせ●

ひめゆり平和祈念資料館では、今年７月にリニューアルを予定していましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により来年４月に延期することになりました。
リニューアル工事に伴う休館期間は下記の通りです。

2021（令和３）年３月22日(月)～４月11日(日)

なお、消費税増税およびリニューアルに伴う入館料の改定も、リニューアルオープンの４月12日以降の実施となります。

個人	①大人	310円→450円	団体	①大人	280円→400円
	②高校生	210円→250円		②高校生	190円→200円
	③小中学生	110円→150円		③小中学生	100円→110円

皆さまにはご迷惑をおかけしますが、ご理解、ご協力の程、どうぞよろしくお願いいたします。

◆多目的ホールご利用のご案内

当館ではひめゆり学徒隊や沖縄戦について学ぶための平和講話（約45分）、ビデオ視聴を事前予約制で承っております。ご予約は、資料館へご入館の団体に限ります。ご予約時間は以下のとおりです。お電話にて空き状況を確認後、ＦＡＸかメールにて申込書をお送り下さい。

【講話・ビデオ】9：00　10：00　11：00　12：00　13：00　14：00　15：00　16：00

※ビデオ作品　○証言ビデオ「平和への祈り―ひめゆり学徒の証言」（25分／1994年）
　　○アニメ「ひめゆり」（30分／2012年）

※年末年始（12月30日、31日、１月１日～３日）・旧盆（旧暦７月13日～15日）は講話は休みで、ビデオ視聴の受付のみ可能です。慰霊祭前後（６月21日～24日）は、ビデオ上映会のため、予約はできません。

※ホールの収容人員は約200人（席）です。

※多目的ホールは講話及びビデオ視聴以外の目的（セレモニー等）には利用できません。

※予約時間に遅れた場合、予約状況によってはキャンセルさせて頂くこともございます。

◆ご利用案内（開館時間、料金、アクセス）

①入館受付　午前９時～午後５時（閉館は午後５時25分）　②休館日　年中無休

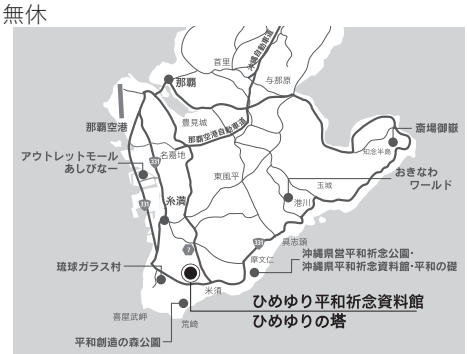
③入館料　大人￥310/高校生￥210/小・中学生￥110
団体料金（20名以上一括）大人￥280/高校生￥190/小・中学生￥100

④交通案内

【路線バス】旭橋・那覇バスターミナルから［89糸満線］で約30分
糸満バスターミナルで［82玉泉洞糸満線］に乗り換え約15分、
ひめゆりの塔前下車

【モノレール・路線バス】モノレール那覇空港駅から赤嶺駅まで約４分
赤嶺駅前（糸満・豊崎向け）バス停で［89糸満線］に乗車し約20分
糸満バスターミナルで［82玉泉洞糸満線］に乗り換え約15分、ひめゆりの塔前下車

【車】那覇空港より国道331号で約30分～40分



ひめゆり平和祈念資料館 資料館だより 第65号　　2020（令和２）年５月31日発行
編集・発行　公益財団法人 沖縄県女師・一高女ひめゆり平和祈念財団立 ひめゆり平和祈念資料館

〒901-0344　沖縄県糸満市字伊原671-1　　☎098-997-2100
URL：http://www.himeyuri.or.jp/　Facebook https://www.facebook.com/HIMEYUIRI.PEACE.MUSEUM/